

研究授業「保育内容－造形表現」についての考察

岡谷 崇史*

Consideration on a Research Class on "Childcare Content - Art and Design"

OKATANI Takafumi

要約

本稿は、令和 4 (2022) 年度第 1 回保育学科研究授業の考察である。当該授業科目 (保育内容－造形表現) における本時の目標を「色彩の明度差」、「構図」とし、講義と製作活動を進めた。

題材は、学生がこれまでに製作したモダンテクニック 10 点の作品を使って、大学祭で飾る階段装飾作品を製作した。誰にでも簡単に表現できるモダンテクニックは、今日の幼児教育の造形表現で広く浸透している。意思をもって描く技法ではなく、偶然できる思いがけない表現に、子どもたちの感動や喜びを誘うのである。

本授業は、すでに製作を始めて 3 時間目にあたり、製作の進度が先行する学生と遅進の学生が混在している状況にある。したがって学生個々に丁寧な助言が必要であった。

キーワード：色彩の明度差、構図、モダンテクニック

Abstract

This article is a review of a first nursery school research class in 2022. The goals of this class *Hoiku Naiyō Zōkei Hyōgen*, or Childcare Content - Art and Design, were set as "differences in the brightness of colours" and "composition". Classes proceeded with lectures and production activities.

The subject was a staircase decoration work for a university festival, using 10 pieces of modern techniques that the students had created so far. Modern techniques that can be easily expressed by anyone are widely used in early childhood education today. This is not a technique of painting with intention, but an unexpected expression that can be created by chance, which induces excitement and joy in children.

This class is already in its third hour of production, and there is a mixture of students some are advanced in production and others are behind in production. Therefore, it was necessary to give careful advice to each student.

Keywords: differences in colour, composition, modern techniques

1. はじめに

今回の研究授業の題材は、モダンテクニックを使った切り絵・貼り絵の作品である。授業総時間の内、6時間かけて様々なモダンテクニックの作品10点を製作し、それらを使って文字の部分に切り貼りし、余白部分に学生が好きな絵本の一場面をトータルカラーなどで切り貼りして製作する。完成すると、今年の大学祭保育学科「ほいくのくに」の会場にある階段に装飾として使われる。

モダンテクニックの誕生は、美術史上で20世紀に入ると、これまでの芸術を否定するダダイスムやシュルレアリスム（超現実主義）の出現によって、新しい表現技法が数多く生まれた。この表現技法は、モダンテクニックと呼ばれ、意思をもって描く技法ではなく、偶然に出来た色や形、絵肌（マチエール）を利用したものである。

ダダイストで美術家のマルセル・デュシャンや、シュルレアリスムの画家マックス・エルンストの実験的な作品から、広く認知されるようになった。

モダンテクニックの誕生は、20世紀の初頭ダダイストたちによって行われ、美術史上のあらゆる既成概念を破壊する芸術運動である。「ダダ」という命名したトリスタン・ツァッラやハンス・アルプが活躍した。第2次世界大戦後では、ニューヨーク・ダダと呼ばれるアメリカの抽象表現主義の画家ジャクソン・ポロックやアンフォルメル、サム・フランシスなど多くの画家が、モダンテクニックを駆使した作品を描いた。

図1は、ジャクソン・ポロックの題名『収斂-10番』という作品で、1952年に描かれている。キャンバス（画布）を横に寝かせて滴るエナメル塗料でドリッピングの技法で描かれている。既存の絵具ではなく、粘りがある塗料で描かれていることで、上から落とす塗料が尾を引きながら互いに交錯し、絵の具とは異なる軌跡で新しい空間を形成している。

図2は、マックス・エルンストの題名『石化した森』という作品で、1927年に油彩で描かれている。画中の森の部分、木の木目を利用したフロッタージュの技法で描かれている。モダンテクニックの一つで、凸凹した物の上に紙などを置き、鉛筆などで擦り出すのである。

今日、子どもたちがよく見ている絵本の絵に、モダンテクニックを使っていない絵本は皆無といえる。それほど、絵の技法・技術として定着している。

本時は、この題材を始めて3時間目にあたる。この時間になると手際が良い学生がいる一方、イメージを



図1

出典元：西洋絵画史 WHO'S WHO
株式会社美術出版社

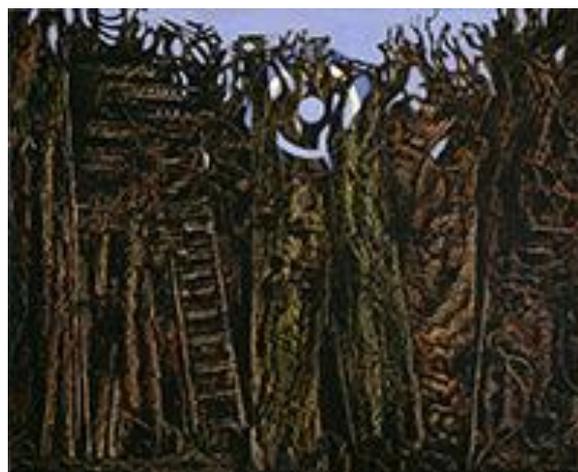


図2

出典元：西洋絵画史 WHO'S WHO
株式会社美術出版社

つかむのに苦勞する学生などで製作状況に差が出てくる。そのために、机間巡視をしながら学生個々へのアドバイスが更に重要となる。

1. 研究授業の日程

(1) 研究授業

日 時：2022年6月12日（月）第2校時（10:40～12:10）

場 所：本学2号館 2104（図画工作室2）

科 目：「保育内容-造形表現」

担 当：岡谷 崇史

受 講 生：保育学科1年 Bグループ（22名）

(2) 授業検討会

日 時：2022年6月12日（月）昼食時間（12:10～12:50）

2. 「保育内容-造形表現」の基本的性格

保育学科において「保育内容-造形表現」は、幼稚園教諭二種免許状、及び保育士資格取得のための必修科目である。

著者は、シラバスで次のように保育内容-造形表現を紹介した。

「本授業科目は、造形表現に関する授業です。授業の内容として、幼児における「表出」と「表現」の違いや、そのメカニズム、造形表現の変遷を学習します。主に幼稚園教諭として多彩な教育活動を創出する基礎技能を基盤とした実践力を身につけるために、子どもの造形表現に関わる専門的知識と思考力・技能を習得します。教材、カリキュラム、材料、用具、場所や空間などの環境を工夫する力を学習します。また、子どもたちの成長や発達段階を踏まえて、子どもたちならではの造形表現を理解し、正しく援助する力を身につけます。」としている。

次に「保育内容-造形表現」の2022年度シラバスの授業計画を示す。

2.1 授業計画

第1回 オリエンテーション、絵の具など用具の説明、折り紙のテキスト『決定版！日本のおりがみ12か月』から、折り紙の基本的な折り方と「立体ハート」の製作

第2回 子どもの発達段階と表現、モダンテクニック①

マーブリングの製作 写し取る紙（ケント紙、画用紙、和紙）の違い、スパッタリング

第3回 モダンテクニック②

スクラッチ、バチックの製作 テーマ「春」を設定して、クレパスとアクリル絵の具を使用

第4回 モダンテクニック③

ステンシル、スタンプ、フロッタージュの製作 テーマ「アジサイ」を設定して、画用紙とアクリル絵の具を使用

第5回 モダンテクニック④

にじみ、ドリッピング、デカルコマニー、ストリングスの製作 テーマ「そら」を設定して、画用紙とアクリル絵の具を使用

第6回 モダンテクニック⑤

スタンピングとローラーの製作 テーマ「動物」を設定して、ケント紙とアクリル絵の具を使用

第7回 学外授業①

高松市美術館展覧会鑑賞

第8回 学外授業②

高松市美術館展覧会鑑賞

第9回 モダンテクニック⑥

コラージュ製作 雑誌等から素材を選び、色彩や形に留意しながら画用紙に切り貼る

第10回 大学祭階段装飾①

配布した型紙「ほいくのくに」の6文字をケント紙に転写し、丁寧にカッターで切り抜く

第11回 大学祭階段装飾②

短冊状に切った作品を、色彩や絵肌に留意しながら切り抜き「ほいくのくに」の裏側からボンドで貼り込む

第12回 大学祭階段装飾③

短冊状に切った作品を、色彩や絵肌に留意しながら切り抜き「ほいくのくに」の裏側からボンドで貼り込む

第13回 大学祭階段装飾④

好きな絵本の一場面を選び、余白の部分にトーンカラーなどで切り貼りする

第14回 折り紙の練習①

折り紙のテキスト『決定版！日本のおりがみ12か月』から、指定した6点（おひなさま（めびな）・むしやかぶと・カーネーション・クローバー・さくら・チューリップ）を製作

第15回 折り紙の練習②

折り紙のテキスト『決定版！日本のおりがみ12か月』から、指定した6点（パンジー・タンポポ・はなみずき・ちょうちょ・はくちょう（親のみ）・ながぐつ）を製作

3. 保育内容-造形表現における指導上のポイント

3.1 受講生の現状

本学生は、図画工作や美術に対して苦手意識を持つ学生が大半を占める。おそらく苦手意識は、小学生の頃から根付いているものと思われる。この苦手意識が製作の意欲を妨げ、作品の質にも影響しているのである。著者からすると“上手”、“下手”というのは、紙一重だと学生に言い聞かせている。対象を丁寧に観察して、丁寧に絵を描く（物をつくる）ことによって、上手に見えるのである。したがって“下手”とか“不器用”と思っている学生には、払拭させたいと考えている。著者も固定観念を捨てて、学生の製作プロセスや出来上がった作品を見ている。学生も褒めたり、認めたりすることによって、自ずと意欲をもって作品の質を高めようとする。

3.2 授業上の配慮

造形表現の授業では、主に机間巡視によって、学生個々の製作状況と作品を見ながらアドバイスしていくことになる。アドバイスには、特に作品の長所や学生が努力したところを認めるようにしている。但し、授業時間内に学生全員を見て取ることは出来ないため、フォローアップには配慮している。

4. 課題の設定理由

幼児の造形教育の中で、モダンテクニックは広く取り上げられている。本科目でも一通りの技法が習得できるように授業計画に盛り込んでいる。モダンテクニックの種類は多く、派生する技法も含めると約 40 種類ある。しかし、限られた授業計画の中で、全ての技法を会得することは難しい。そこで本科目では、広く保育所や幼稚園でも見られる最も一般的なモダンテクニックを 10 点取り上げた。次の技法で「マーブリング」、「スタンプング」、「スクラッチ」、「デカルコマニー」、「ストリングス」、「ドリッピング」、「ローラー」、「フロッタージュ」、「ステンシル」、「スパッタリング」の 10 点である。個々の技法表現が、どのように制作するのかを、まとめてみた。

5. 保育内容-造形表現の講義計画と本研究授業の概要

この課題は、2022 年の大学祭「ほいくのくに」の階段装飾を目的とした作品である。以前は、モダンテクニックを毎時間、題材を変えテーマを与えて製作していた。当時、作品を評価して、そのまま学生に返却していたが、その作品を発展的に活用できないかと考え、大学祭の階段装飾に至った。学生にはモダンテクニックを製作している時に、作品が後に短冊状に切り刻まれて、別の作品に使われることを伝えていないのである。著者としては、偶然にできたモダンテクニックの表現を利用して製



図 3

作することに意味を持している。また、階段装飾の作品に全てのモダンテクニックの作品を使う必要はないとしている。図 3 は、大学祭当日の階段装飾の様子である。

本時では、製作の進捗状況に差がつき、目標を 3 点設定することになった。指導については、学生個々の状況に応じて丁寧に対応する必要が出てきた。

6. 本時の指導案

6.1 本時の目標：

- 切り貼りした 6 つの文字「ほ」「い」「く」「の」「く」「に」が、ほぼ均等に視認できる。
- モダン・テクニックの表現が、6 つの文字にバランスよく配列されている。
- 構図やレイアウトの変化によって、作品の印象が異なることがわかる。

時 間	学 習 内 容	指導上の留意点
10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経過 ・今日のポイント 	出席確認 ・参考作品を掲示したり、OHC で投影したりして、本時のポイン

10:45		トを説明する。
10:45	<ul style="list-style-type: none"> ・構図やレイアウトについて考える。 ・構図やレイアウトの変化によって、作品の印象が異なることがわかる。 ・持参した絵本のキャラクターを、どのようにレイアウトするか考える。 	プリント配布（資料 2、資料 3、資料 4） <ul style="list-style-type: none"> ・プリントを OHC で投影し、さまざまな構図やレイアウトについて考えさせる。 ・構図やレイアウトの変化によって、印象が異なることをわからせる。
10:55		
10:55	<ul style="list-style-type: none"> ・階段装飾製作 ・短冊状に切ったモダンテクニックの表現を、バランスよく配列する。仮止めは、マスキングテープを使う。 ・文字全体の色彩に留意して切り貼りする。特に彩度に留意しながら、短冊を並べ替えたり、入れ替えたりする。 	机間巡視 <ul style="list-style-type: none"> ・1つの文字だけでなく、隣の文字や、全体の色彩も留意させる。 ・短冊の彩度に留意させる。
11:55	<ul style="list-style-type: none"> ・配列が、決まったらボンドで貼っていく。 	
11:55	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の作品を OHC で投影し、本時のポイントと次回の作業を説明する。
12:00		
12:00	次時予告	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の準備物を伝える。
12:10	片付け・消毒	

6.2 使用教材・資料：

学生準備物：ケント紙、モダン・テクニックの作品、カッターナイフ、カッターマット、ハサミ、定規、トータルカラー、木工用ボンド（速乾性）、ノリ、好きな絵本1冊（コピー可）

教師準備物：参考作品、レイアウトのプリント(53部)、マスキングテープ（16ケ）、古新聞紙

次の表は、今回の授業で製作されたモダンテクニックとその表現技法である。40種類ほどある表現技法の中で、保育現場で最もよく使われるものを選んだ。

技法の名称	表現技法
マーブリング	<p>墨流しの技法で、日本では墨汁などを使い古くから行われている。水に浮かべた絵具（墨）を写しとる技法である。バットに、墨や彩液、絵具等を落とし、軽にかき混ぜ、紙で水面に浮かんでいる模様を写しとる。その模様が大理石のような模様ができることから、その名がついた。</p>

スクラッチ	英語で「ひっかき傷」を意味する。パスまたはクレヨンを塗り重ねて二層にし、上の二層目を削り取って下の二層目の色を表す技法である。
ステンシル	版表現の一種で、画用紙で型紙を切り抜き絵具のついたタンポで着色する。切り抜いた形と型紙のどちらも版として活用することができる。タンポに変わってローラーを使っても独特の表現ができる。
デカルコマニー	二つ折りにした紙の一方に任意の絵具をつけ、再び紙を二つ折りにするともう一方の紙に絵具が映り左右対称の表現ができる。
スパッタリング	版表現の一種で、画用紙で型紙を切り抜き絵具のついた歯ブラシなどを弾いてぼかしをつくる。または、ブラシを金網に当てて弾いたりする。切り抜いた形と型紙のどちらも版として活用することができる。
ストリングス	二つ折りにした紙の間に絵具をつけた凧糸などの紐を任意に置き、再び紙を二つ折りにし横から凧糸を引っ張ると絵具の軌跡が残る表現である。糸引き絵とも呼ばれている。
フロッタージュ	20世紀初頭のシュルレアリスムの画家マックス・エルンストが発見した表現技法である。凹凸のある面や物に紙を当てて鉛筆やクレヨンなどで擦ると、凸面が濃い模様となって紙の上に浮き出る。
ドリッピング	水を多めに加えた絵具の水滴の特性を利用した表現技法である。たらしと吹き流しの2種類の技法がある。
スタンピング	版表現の一種で、様々なものに直接絵の具をつけ、紙に押し出す技法である。一般的に野菜を輪切りにしたものや、落ち葉、紙コップなどがよく利用される。
ローラー	版表現の一種で、ローラーを使って筆による表現や、また他のモダンテクニックとは異なる独特な表現が可能となる。ローラーを使って重色すると、偶然できる絵肌が表現できる。

次の図4は、学生作品の一部でモダンテクニックの組み合わせの一例である。一つの文字の中に同じモダンテクニックの作品を使っても良いと認めている。

図5は、図4の裏側である。短冊状になったモダンテクニックの文字の色彩や明度差を考慮しながら、裏側から貼付したものである。短冊状の作品が散逸しない様に、学生自身が分かりやすく番号を附している。

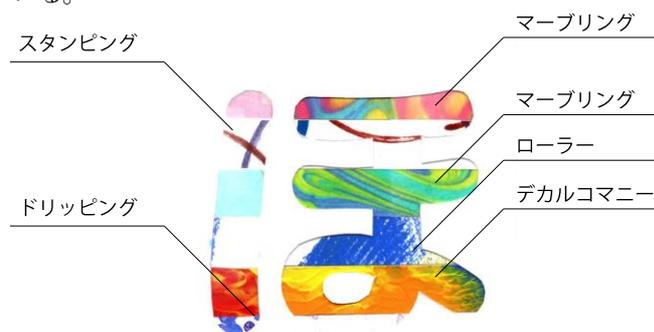


図4



図5

図6は、ミッフィーの絵本から場面を抜き出し、学生なりに工夫して再構成している。この題材は、絵の具等は使わないで、紙の切り貼りで仕上げる。ただ、細かい目、鼻、口の部分には、サインペンの使用を認めている。

次の作品は、完成した学生作品である。どの作品も構図に動きが見られるなど熟考の跡が見られる。例えば、木や登場する動物、果物で画面のバランスをとろうとしている。また、文字のバランスと色彩の美しさ、絵本のキャラクターのレイアウトに工夫が見られる良作である。



図6



学生作品 A



学生作品 B



学生作品 C



学生作品 D

5 研究授業を終えての省察

本授業を参観していただいた教員の方々による授業検討会での発言内容や参観記録に従えば、「教育内容」、「授業ノートなどの教材準備・使用方法」、「環境構成」、「授業者の講話や板書」について、概ね肯定的な評価が確認される。積極的に評価できる点では、モダンテクニックが広く絵本の技法であることを紹介した点や、製作の目的が明確であった点が評価できる。また、構図やレイアウトについて学生が試行錯誤しながら納得できる表現に到達できる点である。

一方で、講義の改善に関する幾つかの御示唆をいただいたことも確認しておきたい。

まず、一つ目は、構図やレイアウトの変化ではスマホやPC等のデジタル機器を活用したらどうか、また道具の特性について知らせる機会があればと思った。「美的センス」というのは、はっきりしない概念であるが、考える良い機会になった。

二つ目は、授業終了前に各自のイメージや工夫などを話し合う振り返りの時間があっても良かった。自分以外の人の思いや考えを知ったり、自分の作品について自分の言葉で説明や補足を行ったりすることが、今後につながるのである。振り返りは、各自自然と行っているのだが、発表することによってより具体化すると考える。少し作品の完成や提出に頭がいき、ゆとりがなかった感があるため、積極的に振り返りの時間を取りたい。他にも作業の効率化も図ることによって、多忙な現場に生きることができ

るなどの意見があった。基礎的でオーソドックスな使い方を無視して、時間短縮のために製作の一端を省き進めることに異を唱える。

著者自身で授業を振り返ると、レイアウトや構図の説明では、もう少しバリエーションを広げて奇抜なレイアウトも紹介しても良かったと考える。レイアウトや構図は、表現においては色彩と同様に重要な構成の一つである。また、製作進度が早い学生と遅進の学生の製作状況が異なるため、全体の説明では個々の進度に応じての説明になった。今後、製作進度に遅進が見られないように、時間配分を考慮していく必要がある。

6. おわりに

モダンテクニックを使った文字表現は、モダンテクニックを生かす一つの表現に過ぎない。他にもモダンテクニックが、生かされる発展的な課題は数多くある。モダンテクニックを使った文字表現でも階段装飾の完成を見据えてモダンテクニックを製作するのか、または、既に完成したモダンテクニックの作品を利用して文字表現を製作する方法の二つがある。前者の方法は、極めてオーソドックスなものであるといえる。今回の製作方法は後者で、限られた材料から取捨選択しながら製作することに意義があるため、この題材を設定した。しかし、学生からすると既に完成したモダンテクニックの作品に愛着が生まれ、その作品を短冊状に切り刻んでいくことに抵抗があろう。

製作方法及び基本的な道具の扱いを取得しながら、製作の効率化も考えていく必要があると感じた。学生が将来保育士になり、保育現場で壁面装飾などの造形表現の手を抜く事なく、製作の時間を短縮する工夫を学生自身が身につけることである。

今回の研究授業を通して、先生方のご指導により今まで自分が気づかなかったことが分かり、今後の指導に役立てていきたい。

本稿の最後に、研究授業にご協力いただいた受講生（保育学科1年次生）、ご参観いただき、授業検討会や参観記録で貴重なご意見をいただいた教員の方々に深謝の意を示す。

引用

図1, 図2 雲野良平編集『西洋絵画史 WHO'S WHO』, 株式会社美術出版社, 1996年, p.14・p.17

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針解説書』, フレーベル館, 2018年

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』, フレーベル館, 2018年

保育内容-造形表現

「ほいくのくに」階段装飾作品づくり

2号館西階段1階から2階にかけての24段を「保育内容-造形表現」の時間で製作した作品を装飾する。1段あたり3作品(3名分)となる。これまでに製作した様々な「モダンテクニック」の作品を使って製作する。

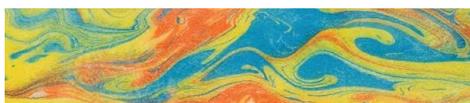
■これまで製作したモダンテクニック

・スクラッチ	・マーブリング	・フロッタージュ	・ドリッピング	・ローラー
・ステンシル	・デカルコマニー	・スタンピング	・スパッターリング	・パチック

制作手順

- 1 与えられたケント紙に「ほいくのくに」の文字を転写し、カッターで丁寧に切り抜く。「ほ」と「の」の部品を忘れずに保管しておくこと。
- 2 制作したモダンテクニックの作品を短冊状に切り、切り抜いた文字「ほいくのくに」の裏からボンドで貼る。

タテ 10mm ヨコは任意(最低 70mm 必要)

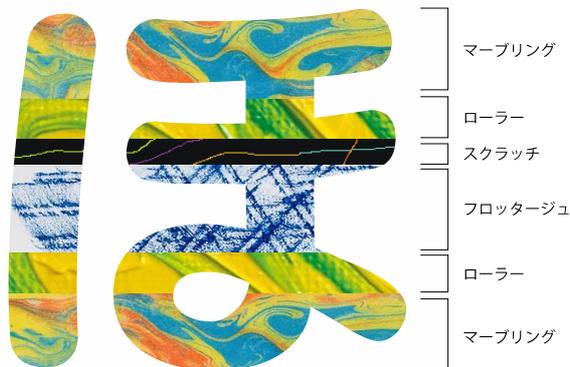


但し、貼る前に文字の全体感を考えて配置する。仮止めは、マスキングテープを使う。配色の美しさや6つの文字が均等に見えるようにする。

- 3 文字「ほいくのくに」が完成したら、余白に自分の好きな絵本のキャラクターをトータルカラーなどで作る。

また、キャラクターなどのアウトラインは、サインペンを使わずに切り貼りすること。

■文字の制作例



ほいくのくに

ほいくのくに

ほいくのくに



※ 「〇〇〇あおむし」 エリック・カール著 アメリカの絵本作家 他「ごきげんななめのてんとうむし」

